



令和6年度「スキルアップ学習会」  
ご視聴ありがとうございました



テーマ

「愛着の問題を抱える子ども達の理解と支援 Part2 ～発達障害との関連～」

【講師】和歌山大学 教育学部教授 米澤 好史 先生

【形態】YouTube限定配信

【配信期間】令和6年8月1日～令和6年8月30日

【視聴申込】407名（所属内訳：幼稚園・子ども園90名、小学校154名、中学校10名、特別支援学校152名、社会福祉1名）



今年度は、Part2と題して愛着障害と発達障害の関連についてご講演いただきました。「多動」という行動一つを見ても注意欠如多動症（ADHD）のお子さんは、時間や場所、集団の人数等、状況を問わずいつもその行動が見られるのに対し、愛着障害のお子さんは、曜日や時間、状況によってムラがあるなど、発達障害と愛着障害の違いや見極め方、対応方法を中心に教えていただきました。

発達障害は先天的な障害であるのに対し、愛着障害は後天的なものであることから発達障害と愛着障害は併存する、ということもわかりやすくご説明いただきました。

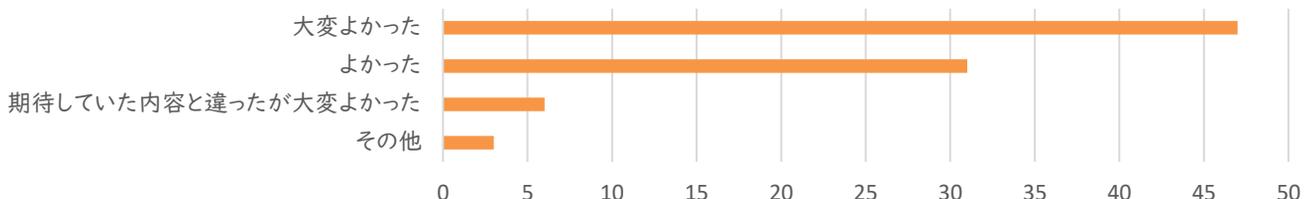
「“発達障害”が原因で起こっていると思っていた行動が実は“愛着障害”だったということが具体的に知れてよかった」

「発達障害と似て非なるものだということがよくわかった」



といった感想が寄せられました。

講演の感想（アンケートより） 回答者数87名



令和7年度も学習会を実施します。

詳細が決まりましたら、ホームページでお知らせします。



# 特別支援教育連携協議会を開催しました

令和6年12月5日宇治市、12月12日に城陽市特別支援教育連携協議会を開催しました。保健、福祉、教育のそれぞれの分野から関係者の皆様にお集まりいただき、特別支援に関わる内容を交流・協議しました。

今年度は「支援が必要な子どもたちへのよりよい支援について～よりよい移行支援につながる自己理解に焦点をあてて～」をテーマとし、“自己理解”を進めるためにどのような取組ができそうか意見を出し合いました。

はじめに教育の最終段階となる高等学校の校長先生から自校での合理的配慮や自己理解に向けての取組について聞かせていただきました。また各機関に向けて「中学校までの支援履歴はすべて開示して入学してほしい」「すべて開示されることで本人へのデメリットは何もない」「高校卒業後も自分の困りを隠すことで離職率が上がっている、どこかの段階で本人が気づけるよう伝えていく必要がある」という発信がありました。

その後の協議では、就学前の時期には「保護者の受容が第一であり、保護者、子ども達ともに安心して気持ちを出せる関係性や環境づくり」、小学校段階では「指導者側が本人の困りに気づきフォローすることで自分の困りに少しずつ気づききっかけが作れるのではないか」、中学校段階では、「学活等の授業を通して自分を知る機会を作り、その積み重ねが進路へと繋がるのではないか」といった意見が出ました。

それぞれの意見を受け、当センターでも各段階でどのような取組ができそうかを検討しております。

ご参加いただきました皆様ありがとうございました。



～アンケートご協力のお願い～

今年度、巡回相談でお世話になりました学校様に対して、巡回相談実施後の効果や課題についてのアンケートをメール送付しております。アンケートを基に当センターの業務をより良いものとし、特別な支援を要する子ども達へのさらなる支援へとつなげていきたいと考えております。記入はフォームにて、3月21日(金)メ切としております。

お忙しい時期かと存じますが、ご協力よろしくお願ひいたします。

